



小笠原流歌方百條

全

口 9
4443



□9
4443



一人のしるる屋敷にさす事
 一人の給る者をいさうにさす事
 同輩より上座をさす事
 一はさし出さるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事



一我輩をさるる事
 一一人のしるる屋敷にさす事
 一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事

一我輩をさるる事
 一一人のしるる屋敷にさす事
 一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事

一我輩をさるる事
 一一人のしるる屋敷にさす事
 一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事

一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事
 一膳をさるる時も同様の事
 一膳をさるる時も同様の事
 一の山と射場の方をさるる事



○ 左の小袖をきて法衣渡の事

太刀をい。右は持。衣名をい。持。そ渡す時。衣を
右は重。衣名をい。持。そ渡す時。衣を
持のどく渡す。そ衣名をい。持。そ渡す時。衣を
持のどく渡す。そ衣名をい。持。そ渡す時。衣を

○ 太刀小袖帷子をきて法衣渡の事

そ太刀柄り。法衣のどく渡す。太刀柄り。法衣のどく渡す。
横に重。太刀柄り。法衣のどく渡す。太刀柄り。法衣のどく渡す。
そ太刀柄り。法衣のどく渡す。太刀柄り。法衣のどく渡す。

○ 右の衣をきて法衣渡の事

そ右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。
そ右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。
そ右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。右の衣。

○ 途中の衣の清衣渡の事

其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。
其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。
其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。其のい。

○ 舞臺に衣の折紙をきて

舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。
舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。
舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。

○ 舞臺に衣の折紙をきて

舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。
舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。
舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。舞臺に衣の折紙をきて。

○ 武士の小袖のあやまりの事

武士の小袖のあやまりの事



小袖へ上へを上げたりとある袖を返して置たり船いあ
るいさるも其くたを何やとめんとりてまきひに
相女房危の小袖をへきと人をきたりたね屋いさ
ねるも同ああり。扱帷ふたもや同あ小袖を二重
るむういさ。給一重といや帷子を返らなり小袖二重
といふ給を返らなりそれを小袖一重給一重と云なり。
その節より取は傳あり

○刀の取取二の事

刀へ付緒を返のこより二つとるどかきとるものやと扱は上をいひ返し扱
刀扱をまじふはひさききつて返さへ。諸事へ先右の多減出で扱取
うけてたのきとて扱ひのものを取右とて返車て扱取若た減あふ二れて
のくべ。扱取の刀あふきとていさひさ減車て扱取

○脇指の取取の事

脇指の中緒を返れもやと扱取扱取を扱取なりとて扱取まやて
扱取へ扱取へあのも減一重と出し其まき扱取指へやうたの
は傳あり

○長刀の取取の事

長刀の取取を扱取なりとて扱取扱取へあて右の扱取を付ひさき返り扱取
して中に扱取を扱取なりとて扱ひの取を返さへ。扱取の扱取の扱取上へ
あて上より扱ひの取を返さへ。扱取へ。扱取の扱取の扱取同あやうい
は傳

○弓の取取の事

弓の取取を先へあて右の扱取を返す時、扱取の扱取を右へを右の扱取の
扱取の扱取を扱取なりとて扱取扱取へあて右の扱取一重と出し。上て中ての取を返
扱取右の扱取一重と出し。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。
扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。

○うづの取取の事

うづの取取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。
扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。

○扱の取取の事

扱の取取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。
扱取の扱取の扱取。扱取の扱取の扱取。

A black and white illustration from a Japanese book. A man in a kimono is seated on the left, looking down at a small child lying face down on a low wooden stand. The child is wearing a patterned kimono. The background shows a sliding door (shoji) with a grid pattern.

(一) 是の紙の折め残裁たふして。硯箱の上小紙を垂、拵て
系り。扱^{せん}汚^{せん}あちて巾は垂。上ある紙を短く。裁右の方へ
あき硯箱の多きを垂て。左にあふの多くを垂。扱硯箱を
あとの手巾であち垂て。まゝ入る。扱多く出る。財のうへ紙



莊

らまへたのもちで。ちうと聲こゑをえ。右ちてゐう乃成なりなりとて。のせり。透とう月げつ鼻びの
老らうのう耐たいへ。ま不ふ成なりとてのまべし。その外そといゝうにもう。あうば

○ 食のぐえの^{いさ}湯^{やう}茶のこゑへき事

何^{なん}でもあれじ。中^なより喰^くなり。但^たこそこの物^{もの}へ。まうりくえい。大^お鼻^びきさく
の中^{なか}にさへ。あえをさう喰^くぐえなり

主狀ををりて事

たふ指字既を我方ふあて系うたへ。但主人より僅下衆の方より来る
状るゝ主人の名出をとくはるゝにして系うたへ。毎朝小入るもくを
わけあはうり系うては。但より法さるる毎朝るふ。そのまに之出使し

○ 臺にまゝはむべし

前こく成たるやうにふふおびのうえにをめてはむべし。被^ひ病^びの
ち^ち同^{どう}あり

○火辨燭羞のふを〜ゆ

二色^{いろ}どもにありて二^に美人^{きよじん}のこへむあべ

○ 其石をんのおきこり

其むんを^あを^して時。客のうに^しと^て盡^すべ^しく^し但^し和^した^し
白石上^るべ^しく^し芝^れ陰^ん陽^{やう}の^しあ^はえ^り。ゆ^りな^がく^し主人^の
白^きき^のふ^しを^して^しべ^しく^し

○ 風のむき

まづ手水拭きしむひ小刀をもすきて、袖右のひご城まで
既のやきくむくを、其の敷の六半おむくで、袖わぎ
にきて、とよりすき土利きくをたてふ二ツより。又よき切ありき
申の名をえといふゆゑあり

○ 楸のむきやう

と稱りたる人。先原をを殺してより小刀を多く。丸あらずむくべ。つ稱る
わさの二ふよりむくべ。

○
屏風の立て方

すゝ縁を^ふ上^へりてそ^{つぎ}次^{つぎ}ふ^をう^をを^ふみ。彩色^{ふしき}ハ下^へ座^ざなり

○鳥とりのこ食くべき次つぎ也なり

是は陰陽をわさぐり。ニつちおきり。前へ陰女なり。むさく陽男なり。男の時へ



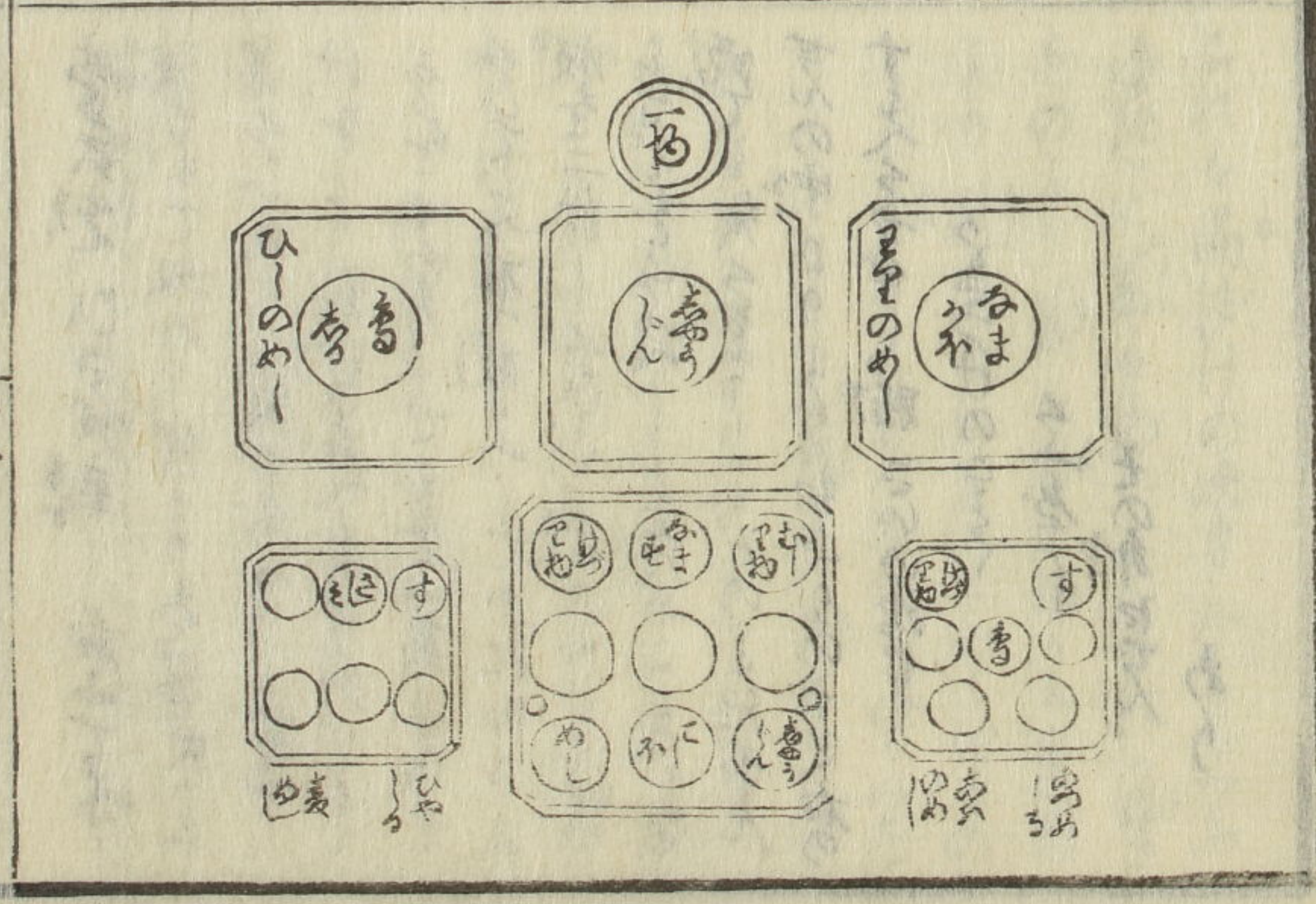
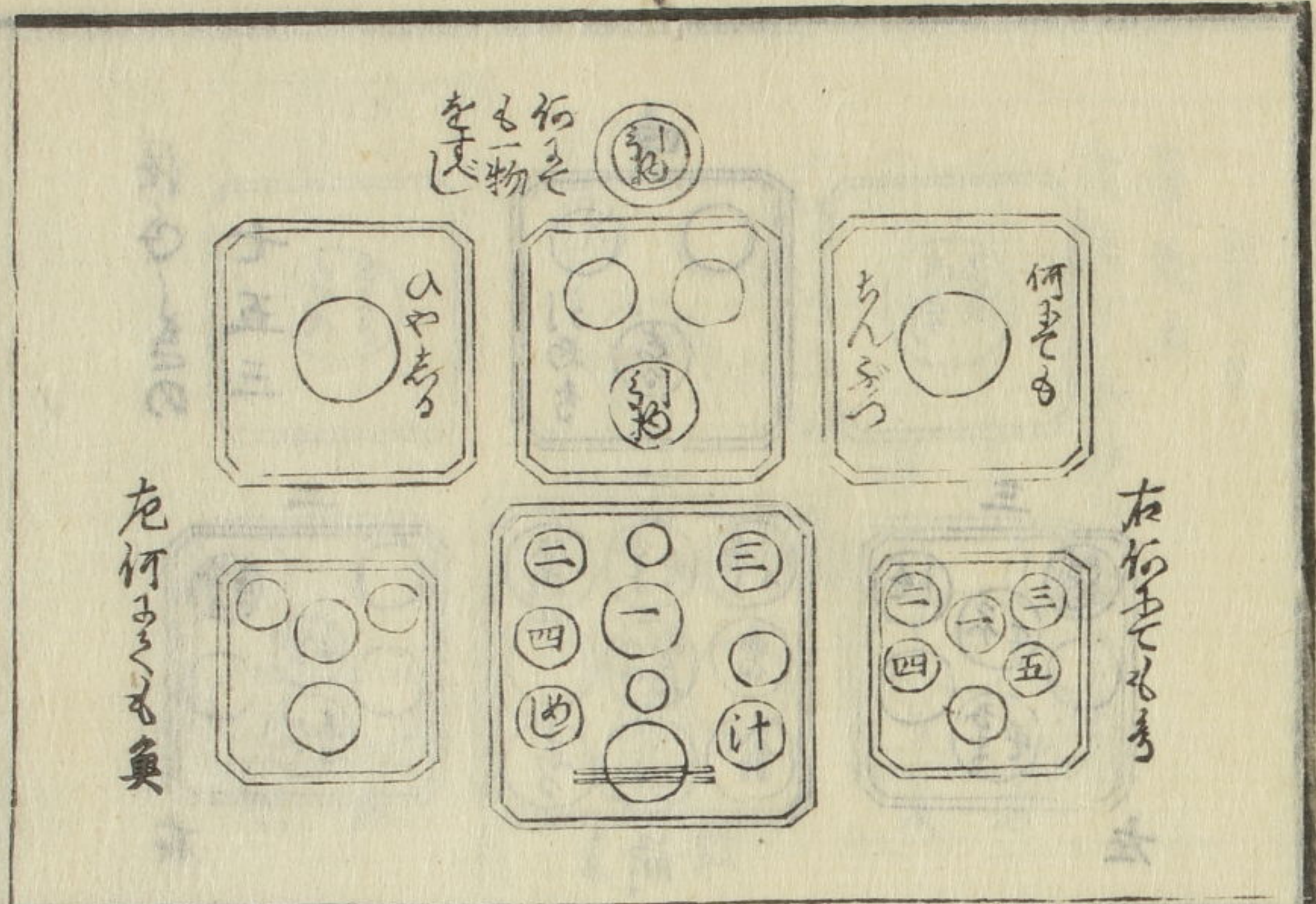
板あつてとうけ。一めんふと度づはさきまうを問ふとそとと九度とふ
 かり是出陣 用本端陣とふとありやうたいとふ同せんあり。
 故実には

○かき方の略の次第

これへより右で着戦よりあを。たあへ合戦とふとさきひてそ右
 へく着をたあへ。か勝のけを取。たへよりうへ。あをけをさうしてそ
 ける二と一とひて。又たへよりうへとや小垂合を二とさきひて又さへ
 へくけのさきへひくけはすつとさきへ。勝はさきへ。さきめはけをさきひて
 さきへをさきひて。其ときさきへんのうへよりけさきへ。書付のあへ。
 二三回ふけをさきひて。板勝のさきへ。ひさめたふとさきひ
 へ。其外へさきへは勝はあるあり

たのさきありとも喰あつたもの。又
 ちんとけあつたもの。あつたもの
 数へるへくけ
 さんやう。香のもの。何れも真

た七とふとの付。さへ要の版より。さ
 素版。たあへの版。さへ小垂め
 より。喰はへへ。勝のさきへは
 やう。さへのおへ



月
四

いふハ文字教もすくなく。

は橋の上牛馬引く事
車大石を引く事

定

は橋の上にあて置
かきむ往來の事
おきしむへは商人
物きしむへは商人
車の敷切しつる事
若お背族の曲る事
この也

正徳元年五月日

官司

は橋の上の舟の

舟へは舟一切

舟へは舟一切

族あはははは

この也

寅

官司

定

火事の村

橋の上の舟を

往來具よ通を

る事この也

卯

定

何橋渡候

一町人百姓 寺人武藏

一町醫士家 寺人武藏

一橋村寄員 寺人武藏

一馬場番長 寺人武藏

一治貨に附 寺人武藏

徳武士方病物附候

有通船事

辰

上、出る候の事、是は、
の橋を、所、の官司の
寄附、す、た、び、有、べ、し、橋

定

一は、渡、船、入、付、て、目、交

馬、一、是、は、交、死、舟、賃、を、受、て

渡、候、は、但、武、士、の、面、に、入、馬、は、

一、切、丹、保、を、受、て、た、し、

武、士、の、居、は、り、と、い、ふ、も、主、人、の

供、を、も、せ、ま、り、と、い、ふ、も、主、人、の

主、人、の、主、人、の、主、人、の、主、人、の

武、士、の、主、人、の、主、人、の、主、人、の

一、火、事、大、水、起、り、て、何、事、お、り、

常、より、人、多、く、舟、を、受、て、

増、船、を、受、て、往、還、の、舟、を、受、て

極、す、す、事

一、南、人、船、は、往、還、の、人、お、り、

よ、り、と、い、ふ、も、主、人、の、主、人、の

何、の、へ、り、と、い、ふ、事

右、新、堅、で、相、守、者、也

延、享、四、年、卯、月

官司

渡、候、は、但、武、士、の、面、に、入、馬、は、

一、切、丹、保、を、受、て、た、し、

武、士、の、居、は、り、と、い、ふ、も、主、人、の

供、を、も、せ、ま、り、と、い、ふ、も、主、人、の

主、人、の、主、人、の、主、人、の、主、人、の

武、士、の、主、人、の、主、人、の、主、人、の

一、火、事、大、水、起、り、て、何、事、お、り、

常、より、人、多、く、舟、を、受、て、

増、船、を、受、て、往、還、の、舟、を、受、て

極、す、す、事

一、南、人、船、は、往、還、の、人、お、り、

よ、り、と、い、ふ、も、主、人、の、主、人、の

何、の、へ、り、と、い、ふ、事

右、新、堅、で、相、守、者、也

延、享、四、年、卯、月

官司

渡、候、は、但、武、士、の、面、に、入、馬、は、

一、切、丹、保、を、受、て、た、し、

武、士、の、居、は、り、と、い、ふ、も、主、人、の

文字の配り方々を記す。其外の梅枕も書くこの公のふりかへ

何と二五午何月

此枕より内小新納馬駄賃馬に附く者不て家者也

右と通大く二寸南ぐゝる中て二方とも同父玄後のくこ小年号月を認
けり。此枕の建ある所内外中て納賃人は其並辰遠くを記す

元禄二己巳年開板追々加増補

文化二乙丑年三月吉日令再板

天保十四癸卯年正月吉日再板

江戸馬喰町二丁目角

地本 永壽堂 西村屋與八再板



問屋

